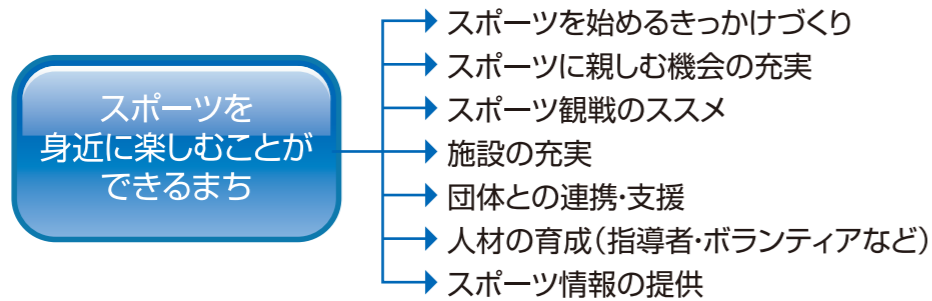


第3章 基本施策

① スポーツを身近に楽しむことができるまち

- ◆ スポーツを始めるきっかけとなるような事業やニュースポーツ・スポーツレクリエーションといった幅広いプログラムを展開するとともに、家族や仲間と一緒にプレーする楽しさを感じてもらえるよう、初心者でも参加できるスポーツイベントを開催します。
- ◆ プロチーム・実業団チームが数多く活動し、年間を通じて様々な種目でハイレベルなスポーツを観ることができる本市の恵まれたスポーツ観戦環境を活かし、スポーツの魅力を感じることができるような施策を展開します。
- ◆ 身近な場所で市民が気軽にスポーツを楽しむことができるよう、既存施設の改修や再整備、施設の有効活用などに取り組むほか、市内の企業等に協力を求め、スポーツ施設の市民への開放を促進するなど、スポーツ環境の充実を図ります。
- ◆ 本市においてスポーツに取り組む各種関係団体の活動を支援するとともに、より積極的にスポーツを推進していけるよう、連携・協働体制を強化します。
- ◆ スポーツに参加する機会を拡充するため、ホームページや情報誌等を活用し、イベントや施設等の情報を提供します。



(1) スポーツを始めるきっかけづくり

スポーツには多種多様な種目があり、種目によって面白み、醍醐味が異なります。一人でも多くの市民がその時々ニーズに合ったスポーツに出会い、生涯にわたってスポーツを楽しむきっかけとなるよう、初心者向けスポーツ教室やスポーツ施設の無料開放、体験イベントなどを開催します。

主な取組	概要
初心者向けスポーツ教室	各区のスポーツセンターを中心に、初心者向けの教室やビギナープログラムを提供し、市民がスポーツに触れ、その魅力を楽しむ機会を提供します。
体育の日記念事業	スポーツに親しみ、健康な心身を培うため定められた「体育の日」を記念し、市民が気軽にスポーツに親しむことができるよう、スポーツ施設の無料開放やイベント等を開催します。
市民体力テストの集い	市民が自らの体力を知り、スポーツを日常的に行うきっかけとするため、全国共通の「新体力テスト」を各区において開催します。

市民体力テスト

昭和39年から行われてきたスポーツテストを改定し、現在は「新体力テスト」として小学生(6～11歳)、青少年(12～19歳)、成人(20～64歳)、高齢者(65～79歳)の区分で行われている全国共通の体力テストです。自分の体力を継続的に把握し比較することができるように、握力・上体起こし・長座体前屈など、各年齢層で共通のテスト項目が設定されています。



(2) スポーツに親しむ機会の充実

本市は市域の北側を多摩川に面し、北西部に多摩の丘陵地を有しています。このような地形を活かし、普段なかなか体験することができないスポーツ種目を体験する機会・施設が整備されています。

こうした貴重なスポーツ資源を活用し、多様なスポーツに触れる機会の充実を図ります。また、日頃の成果を発揮する場として幅広い種目で市民スポーツ大会を開催します。

◆多様なスポーツに触れる機会の充実

主な取組	概要
都市の貴重なスポーツ資源の活用 ・カヌー ・ビーチバレー ・相撲	<ul style="list-style-type: none"> ●多摩川でカヌー体験教室を開催し、カヌーの技術習得・水上事故への対応とともに、多摩川の自然と親しむ機会を提供します。 ●ビーチバレーコートや相撲場を活用し、関係団体と連携しながらスポーツイベント・行事を開催します。
ニュースポーツ・スポーツレクリエーションの普及振興	体を動かす楽しさを気軽に感じることができるよう、カローリングなどのニュースポーツの体験会や川崎市レクリエーション連盟によるスポーツレクリエーションの体験会などを開催します。



◆成果を発揮する機会の充実

主な取組	概要
市民スポーツ大会	生涯スポーツの意識高揚や健康増進、体力の向上を目的として、陸上競技や球技、体操など様々な種目で広く市民が参加できるスポーツ大会を開催します。
川崎国際多摩川マラソン	川崎市を代表する一大スポーツイベントとしてマラソン大会を開催します。 ハーフマラソンに加え10km、3kmの部や親子ペアランニング(約1km)なども用意し、ビギナーや親子連れなど自分のスキル・体力に合わせ、幅広い層が楽しめる大会とします。
多摩川リバーサイド駅伝	走る爽快感、タスキをつなぐ楽しさなど駅伝の醍醐味を感じてもらえるよう、多摩川の河川敷を活用して駅伝大会を開催します。家族・親戚や会社の同僚など様々なチーム編成でエントリーして、親子や仲間と楽しく走ることを目的としても参加でき、子どもから大人まで幅広い世代に親しまれる大会とします。



(3) スポーツ観戦のススメ

多くの人にとって、スポーツを「観る」ことは最も手軽で身近なスポーツとの関わり方です。

川崎にはサッカー、バスケットボール、バレーボールなど国内有数の競技チーム・アスリートが活動拠点を置いており、それらの試合を年間を通じて観戦することができます。

こうしたトップチームや選手のプレーを観るにより、スポーツに対する憧れや興味を育み、スポーツへの関心を高めていくため、ホームゲームへの市民招待や情報発信に取り組みます。

主な取組	概要
川崎フロンターレ 市制記念試合・市民招待	市制記念日前後に開催される川崎フロンターレのホームゲームを「川崎市制記念試合」とし、市民招待を行います。
アメリカンフットボール 公式戦への市民招待	川崎市を拠点として数多くの試合が行われているアメリカンフットボールの迫力を間近で体感してもらうため、国内トップリーグであるXリーグ(日本社会人アメリカンフットボールリーグ)や関東大学アメリカンフットボールの公式戦に市民を招待します。
ホームタウンスポーツ 推進パートナー ホームゲーム招待	バレーボールやバスケットボール、野球など国内トップレベルで活躍する市内実業団チームの試合に市民を招待し、スポーツ観戦の臨場感・高揚感を味わうことのできる機会を提供します。
JBVツアー ビーチバレー川崎市長杯	国内最高峰のビーチバレー公式戦JBVツアーを開催し、普段なかなか観ることのできないビーチバレーの魅力に触れてもらいます。
国際的スポーツ大会の 誘致・開催	国際的なスポーツ大会を誘致し、世界最高レベルの競技に接する機会を市民に提供し、スポーツに対する興味関心を呼び起こします。
全国的スポーツ大会の 誘致・開催	全国的なスポーツ大会を誘致し、国内トップレベルの競技スポーツを直接観戦する機会を提供します。
ホームページや広報紙の 充実	ホームタウンスポーツ推進パートナーをはじめ、多様な種目で国内トップレベルのスポーツを間近に観戦できるという本市の恵まれた観戦環境を活かすため、ホームページや広報紙、テレビやラジオなどを活用しスポーツ情報の充実に取り組みます。

(4) 施設の充実

市民が身近な場所でスポーツを楽しむことのできるよう、既存の公共スポーツ施設や民間の施設、自然空間を活用しスポーツの場の充実を図ります。

- 各施設の機能や利用形態の見直し、大規模改修・再整備による施設の多目的化などを行い、既存スポーツ資産の有効活用を進めます。
- より快適なスポーツ環境を提供するため、既存の施設・設備の充実を図るとともに、各スポーツ施設の特性に応じた効率的・効果的な施設運営と利活用を進めます。
- 多様なスポーツの場の創出に向けて、既存の公共施設や河川等の自然空間の利用を図ります。
- 学校施設を地域に開かれたスポーツ施設として有効活用するほか、市内企業等と連携しスポーツ環境の整備・確保に努めます。

◆拠点公園・緑地の再編整備

	主な取組	概要
富士見公園	長方形競技場の整備	アメリカンフットボールの活動拠点ともなっている川崎球場のフィールドを拡張するとともに、4,000席程度の常設観客席を整備し、競技者と観客の双方が利用しやすい施設とし、アメリカンフットボールやサッカーなどの大会が開催できる長方形競技場を整備します。
	スポーツ・文化 複合施設の整備	富士見周辺地区の整備と連携しながら、スポーツ・文化・レクリエーション活動拠点の機能の強化を図るため、スポーツ・文化複合施設を整備します。 体育館機能として県大会や市民大会が開催できる1,300席程度の客席を持った大体育室や、柔道や剣道のできる多目的室、弓道場(和弓・洋弓)等を整備します。
	川崎競輪場の再整備	公園との調和に配慮したうえで、既存バンクを活用し現位置でコンパクト化するとともに、できる限り多目的な利用が可能な市民に親しまれる競輪場として再整備します。市民に競輪を身近に感じてもらえるように、トレーニングルームの利用など、競輪場施設の活用を通じて、市民の健康増進、サイクルスポーツの普及に取り組みます。
等々力緑地	等々力陸上競技場の再整備	陸上競技やJリーグの試合など、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、メインスタンドの建て替えや施設の機能向上、収容人員の拡大やコンコースの安全対策などの施設整備を行います。
	等々力硬式野球場の再整備	高校野球や社会人野球などの大会開催が可能な硬式野球場として、競技や観戦が円滑かつ安全に行えるよう、施設の機能向上に向け、整備を推進します。
	とどろきアリーナの長寿命化	市内最大の屋内スポーツ施設であるとどろきアリーナについて、中長期保全計画に基づく計画的な維持補修を行い、ライフサイクルコストを縮減・平準化し施設の長寿命化を推進します。
生田緑地	川崎国際生田緑地ゴルフ場への指定管理者制度導入	市内唯一の公営パブリックゴルフコースである川崎国際生田緑地ゴルフ場に指定管理者制度を導入し、民間事業者の創意工夫を活かしサービス向上を図ります。

<整備スケジュール>

年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34~
長方形競技場	整備着手	競技場整備				競技コースを踏まえ第2段階整備を検討					
スポーツ・文化複合施設	PF事業者の選定等	設計・既存施設の解体・整備									
川崎競輪場	第1段階整備(コンパクト化・耐震化)					将来のコンパクト化の検討					
等々力陸上競技場	メインスタンド整備	映像装置			事業評価	設計	サイドスタンド・バックスタンド整備				
等々力硬式野球場	計画策定	基本設計	実施設計	解体	野球場整備						
川崎国際生田緑地ゴルフ場		指定管理者制度の導入									



▲川崎競輪場 再整備イメージ



▲等々力陸上競技場 メインスタンド改築イメージ
*本イメージは工事落札事業者の技術提案です。



▲富士見公園長方形競技場 整備イメージ



◆既存の施設・市有地の有効活用

主な取組	概要
多摩川サイクリングコースの一体的管理	神奈川県・川崎市の2者が管理していた多摩川サイクリングコースについて、県管理部分を本市へ移管し、一体的な維持管理とサイン設置などを行います。
多摩川緑地丸子橋地区における硬式野球場と多目的広場の整備	多摩川河川敷にある旧北海道日本ハムファイターズグラウンドについて、硬式野球場と多目的広場として段階的に整備します。
障害者スポーツセンターの整備検討	リハビリテーション福祉・医療センターの再編整備において障害者専用スポーツ施設の整備・機能向上を検討します。
生田浄水場用地へのスポーツ広場整備の検討	生田浄水場用地の有効利用の方向性のひとつとして、スポーツ広場を検討します。
麻生区片平地区におけるスポーツ・健康ロードの整備	小田急線柿生駅から栗平駅までの片平川沿いの道をスポーツ・健康ロードとし、案内板やプレートを設置します。ジョギングやウォーキングのコースとして活用し市民の健康増進に役立てます。また川崎フロンターレ麻生グラウンドを訪問するサポーターへの案内ルートとしても活用します。
ネーミングライツの導入(命名権)	市のイメージアップと財源確保の観点から有効な資産活用手段であるネーミングライツについて、スポーツ施設・スポーツ関連事業への導入を検討します。特に、メディアへの露出度が高く、川崎フロンターレの試合などが行われている等々力陸上競技場については、再編整備後を目途にネーミングライツの導入を図ります。
市有地の有効活用	市の施設の適正配置や統廃合、建替や改築などにより、新たな活用が可能となった施設や市有地が生じた場合は、全市的な行政ニーズを勘案しながら、スポーツの観点からも活用の可能性について検討します。
学校体育施設の有効活用	市民のスポーツ機会拡充に向けて、土日・夜間など学校の活動に支障のない範囲で校庭・プール・体育館等の学校施設を有効活用します。また、小中学校の統廃合があった場合には、市立小中学校跡地活用基本方針に基づき、全市的な行政ニーズへの対応等を踏まえつつ、体育館や校庭が継続してスポーツにも利用できるよう検討します。

◆その他施設の有効活用

企業等が所有するスポーツ施設の市民向け開放

市内の企業や大学と協定を結び、所有するスポーツ施設や福利厚生施設を、その企業等の利用に支障のない範囲で市民への開放に御協力をいただき、市民が利用できるスポーツ施設の拡充に努めます。

◆運営の改善

ふれあいネットの運用改善
(公共施設利用予約システム)

利用者カードの有期限化や登録要件の厳格化、抽選時における市民優先などを順次導入し、スポーツセンターなど公共施設における利用予約の適正化を図ります。



(5) 団体との連携・支援

生涯スポーツや競技スポーツのほか、スポーツレクリエーション、高齢者スポーツなど各分野でスポーツを実施する関係団体との連携を深め、地域のスポーツ活動や市民主体の活動を支援します。

主な取組	概要
公益財団法人川崎市スポーツ協会との連携・活動支援	市内の種目別競技団体を統括する川崎市スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの推進や競技力の強化、指導者や団体の育成を行い、川崎市におけるスポーツの普及に取り組みます。
川崎市レクリエーション連盟との連携・活動支援	川崎市レクリエーション連盟と連携し、スポーツレクリエーション機会の拡充に取り組みます。
川崎市老人クラブ連合会との連携・活動支援	川崎市老人クラブ連合会と連携し、市内高齢者のスポーツを通じた健康づくり、生きがいづくりを支援します。
川崎市障害者スポーツ指導者協会との連携	川崎市障害者スポーツ指導者協会と連携し、障害者スポーツの普及振興や指導者養成に取り組みます。
社団法人川崎市医師会・公益社団法人川崎市看護協会との連携	スポーツの安全確保を推進するため、医師会や看護協会と連携し、大会やイベント等への医師・看護師の派遣や、スポーツに関する医学的見地からの講演等を開催します。
川崎体育救護クラブとの連携	日本赤十字の救急法講座受講者で結成された市民グループと連携し、各種スポーツ大会に救護ボランティアを派遣し、大会の安全な運営と大会参加者の安全確保を図ります。



(6) 人材の育成（指導者・ボランティアなど）

スポーツの楽しさに気づき、自らスポーツ活動を積極的に行っていこうという思いを育てることやスポーツが地域に根つき、地域で自主的なスポーツ活動を活性化させていくためには、その活動を支える指導者やボランティアが必要です。

市民が幅広くスポーツに親しむ機会を提供するため、市民のニーズに対応した指導者の育成や資質向上に努めるとともに、スポーツ活動の企画や運営を支えるスタッフやボランティアの必要性や活動内容を市民に周知し、活動機会の拡充に努めます。

主な取組	概要
スポーツ推進委員の資質向上	市内各地区で研修会や講習会を開催し、スポーツ推進委員の資質の向上を図ります。また、県の研修会や関東研究大会、全国研究協議会等への参加を支援します。
ヘルスパートナー（運動普及推進員）の養成・連携	運動を通して地域密着型の健康づくりに取り組むヘルスパートナーを養成するとともに、体操やウォーキングなどの普及に取り組めます。
障害者スポーツ指導員の養成	川崎市障害者スポーツ指導者協議会等と連携し、障害者に対しスポーツの喜びや楽しさを伝えることができる障害者スポーツ指導員を養成します。
スポーツボランティアバンクの検討	スポーツを支える担い手としてスポーツボランティアを奨励し、育成・活動支援するためにスポーツボランティアバンクの設置を検討します。
川崎市スポーツ賞	指導者やスタッフとしてスポーツの普及・発展に顕著な功績を残した市民に川崎市スポーツ賞を贈呈します。



👉 スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法に規定された非常勤の公務員で、地域におけるスポーツの推進役として、地域住民に対する指導・助言を行っています。

また、地域のスポーツ施策の企画立案、スポーツ活動の調整を図るコーディネーター的役割も担っています。

本市では、各区にスポーツ推進委員会を組織しており、市全体のスポーツ推進委員連絡協議会を設置しています。現在400名を超える委員が活動しており、各地区で運動会やスポーツ大会を企画・運営したり、市民向けの体力テストを実施しています。

（平成24年9月現在）

👉 ヘルスパートナー（運動普及推進員）

「健康都市かわさき」の創造を目指し、地域住民に運動を通じて健康づくりを普及・推進するためのボランティアです。

地域で運動の実践指導や各種イベントでの体操の普及啓発などを行っており、各区の保健福祉センターとともに地域の健康づくりを進めるパートナーとして市内各地区で活躍しています。

(7) スポーツ情報の提供

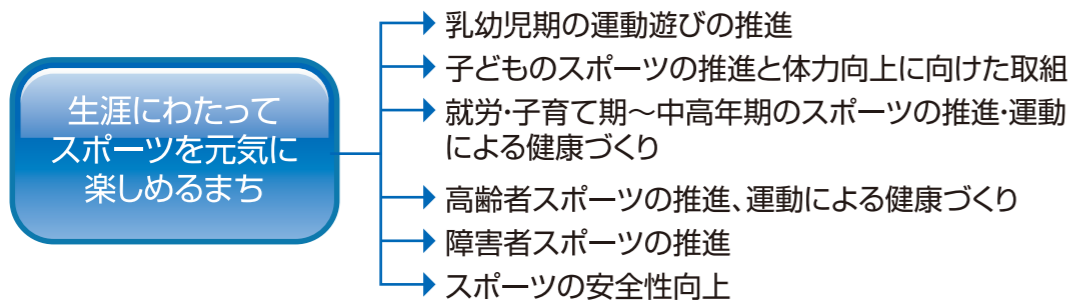
市民が必要とする時に、いつでもスポーツについての情報を得ることができるよう、スポーツに関する適切な情報提供を図ります。

スポーツ情報を集約し、市民にわかりやすい方法で情報提供するとともに、子育て、福祉、健康づくり等と連携しながら、情報を提供する体制を構築します。

主な取組	概要
スポーツセンターニュース	地域のスポーツ拠点であるスポーツセンターの利用を促進するため、各施設の特徴や教室・講座の案内等を掲載したスポーツセンターニュースを発行します。
ホームページや広報紙の充実	市民がスポーツ情報をわかりやすく把握できるよう、各種団体と連携しながら広報紙やホームページ、テレビやラジオなどを活用し、スポーツイベント・講座・施設情報を発信します。

② 生涯にわたってスポーツを元気に楽しめるまち

- ◆ 市民の多様なニーズに対応できるようスポーツ教室の対象者や時間帯などの多様化を図ります。
- ◆ 幼児や子どもが体を動かす遊びやスポーツに夢中になれる機会の拡充に取り組むとともに、体力の向上につながる取り組みを進めます。
- ◆ 親子で参加できるスポーツ体験の場と機会を提供するなど、子育て中も気軽にスポーツに親しむことができる環境づくりを行います。
- ◆ 休日や夜間での教室開催など、就労者がスポーツに参加しやすい機会を提供します。
- ◆ 高齢者のスポーツ・健康に対する高い意識に対応するため、高齢者向けのスポーツ事業を充実します。
- ◆ 障害がある方も、スポーツに親しみ、楽しむことができますようにします。
- ◆ 市民の健康状況や体力に応じ、健康づくり分野・福祉分野などと連携しながらスポーツ事業を展開します。



(1) 乳幼児期の運動遊びの推進

乳幼児期は、本格的にスポーツに接する前の準備段階、プレ・スポーツ期です。この時期に大切なことは、「運動好き」を育てること。純粋に動くことの面白さや同年代の友達と一緒に遊ぶ喜び、親子で一緒に身体を動かすコミュニケーションをとる楽しさを学び、自ら進んで身体を動かすことを好きになることが重要です。そのためにも、「親が自ら動き楽しむ姿を見せることがはじめの一步」との考え方のもと、運動遊びを推進します。



主な取組	概要
保健福祉・子育て施設における運動遊び・外遊びの奨励	国が策定した「幼児期運動指針」に基づき、家庭や地域での運動とともに保育園や幼稚園等においても身体を動かす運動遊びに取り組めます。また、乳幼児が未就学期に通うことの多い保健福祉センターや地域子育て支援センター等の施設においても運動遊び・外遊びを奨励します。
幼児向けスポーツ教室	集団遊びやボール遊びなど、体を元気いっぱい動かして遊ぶ幼児向け教室をスポーツセンター等で開催します。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進できる教室をスポーツセンター等で開催します。

(2) 子どものスポーツの推進と体力向上に向けた取組

青少年期は幼児期とともに、一生にわたる心身の礎を築く大切な時期です。スポーツにおいては、子どもの頃にスポーツの楽しさを味わうと、大人になってからも「する」「観る」「支える」など何らかの形でスポーツに携わることが多くなります。

また体力面においても、学生時代に部活動などスポーツを経験した子どもたちは大人になってからも高い体力水準を維持する傾向にあるとされています。

幼児期に培った「身体を動かすことの楽しさ」を基礎として、友達や仲間と楽しく動くことや特定の種目にのめりこみ、技術の向上を目指すようになるなど運動・スポーツに求めるものが多様化する重要な時期です。

幼児や子どもがスポーツに夢中になり、その結果として体力が向上するとともに、生涯にわたってスポーツに携わる基礎となるよう、学校や地域においてスポーツ機会の拡充に取り組みます。また、学校間や学校と地域の連携を深めるとともに、ホームタウンスポーツ推進パートナーなど国内外で活躍するトップアスリートと協力しながら子どものスポーツを推進します。



◆学校におけるスポーツの充実と子どもの体力向上

主な取組	概要
新体力テスト	子どもたち一人ひとりが自分の体力や運動能力を知り、体力や運動に対する意識を深め、日頃からスポーツに親しむきっかけとするため、体力テストを実施します。 その結果を分析し、学校体育等の基礎資料として活用し授業内容の充実・改善を図るとともに、調査結果を家庭と共有し、子どもたちの体力・運動能力の向上に役立てます。
小学校キラキラタイム	「キラキラタイム」として、休み時間や放課後に教職員と児童が一堂に外に出て遊ぶ機会を設けるなど、子どもたちが自ら進んで遊びやスポーツに親しむ機会を拡充し、体力の向上につなげます。
小学校体育活動コーディネーター等の活用	小学校の体育活動を充実させるため、学級担任と一緒にチームティーチングを行う小学校体育活動コーディネーターや地域のスポーツ人材を活用します。
小学校地区別運動会	近隣小学校の小学6年生が一斉参加する地区別運動会を市内各地で開催します。 近隣校の友達と運動を通して交流し、お互いを認め合ったり励まし合ったり、友達と協力する楽しさを味わうとともに、子どもたちが運動の楽しさや喜びを感じ、生涯にわたって積極的にスポーツに親しむきっかけとします。
フラッグフットボールの普及・交流大会	アメリカンフットボールをもとに誰でも安全に楽しめるよう考案されたフラッグフットボールについて、小学校の授業で取り組むとともに、子どもたちの交流大会を開催します。
川崎市中学校総合体育大会	学校におけるスポーツの充実・発展とスポーツライフの基礎を培い、健康で心豊かな中学生の育成を目的として、市内の運動部活動の総合体育大会を開催します。
大会への複数校合同チーム参加	生徒数が減少し、1校単位でのチーム編成が困難な学校に対し複数校での合同チーム編成を認め、運動部活動に取り組む子どもたちの大会への参加機会を確保します。
教員の指導力向上	教員向けの実技研修会や講習会を開催するほか、学習指導要領の趣旨を踏まえた指導の手引きや事例集を作成し、教員の指導力向上を図ります。

👉 フラッグフットボール

アメリカンフットボールを基に考案された新しい球技で、タックルなど接触プレーを原則として禁止し、子どもから高齢者まで幅広い層が安全に楽しめるスポーツとして普及が進められています。

「攻撃のたびにみんなで話し合い、作戦を考え、役割分担をしながら成功体験を味わうことができる」という特徴が最大の魅力で、本市では、平成18年度から小学校を中心に取り組みがスタートしており、現在は市内小学校113校中100校で体育の授業に取り入れられています。

さらに、学校での授業のほか、川崎市小・中学生フラッグフットボール交流大会や中原区長杯フラッグフットボール小学生交流大会等が行われています。

(平成24年9月現在)



◆小学校と中学校、中学校と高校の連携

主な取組	概要
小学校陸上記録会	川崎市中学校総合体育大会の陸上競技大会において、小学生の陸上記録会を開催します。 小学生が第1種公認陸上競技場である等々力陸上競技場で走る機会を設け、運動に積極的に親しむとともに、小学校と中学校の連携を促進します。
運動部活動 中学・高校合同講習会	運動部活動を通じて、市立中学校と高校の連携を深めるため、各種目で合同講習会を開催し、子どもたちの技術力、競技力の向上に取り組みます。

◆地域における子どものスポーツの充実

主な取組	概要
キッズスポーツ教室 ジュニアスポーツ教室	球技やダンス、器械体操など、スポーツの楽しさを体感し、体の基礎づくりにつながるような教室を開催します。
総合型クラブにおける子ども向けスポーツ事業	総合型地域スポーツクラブなどで子ども向けのスポーツ事業を展開し、学校以外の場所においてもスポーツに触れる機会を拡充します。運動が苦手な子どもや非競技志向の子どもがスポーツの楽しさを味わうことができますようにします。
青少年スポーツ 都市間交流	スポーツを通して郷土・地域社会に触れ、心身ともに健全に成長することを目的として、本市と国内の自治体との間で都市間交流事業を実施します。

◆学校と地域の連携

主な取組	概要
学校体育・運動部活動の充実に向けた外部指導者の活用	学校体育や運動部活動を充実させるため、総合型地域スポーツクラブなど地域の人材やトップアスリート等と連携し、指導補助者や専門指導のできる外部指導者を派遣します。
中学校武道必修化に応じた地域スポーツ人材の活用	中学校における武道の必修化を踏まえ、地域の人材や体育系大学の学生と連携し、安全・効果的な武道授業を行います。

◆トップアスリート等との連携

主な取組	概要
ふれあいスポーツ教室	子どもたちにスポーツの楽しさや素晴らしさを感じてもらうため、ホームタウンスポーツ推進パートナーなど市内のプロチーム・実業団チームが小学校に出向き、子どもたちと選手が直接ふれあう取り組みを進めます。
専修大学ワンデーチームメイト	専修大学の協力のもと、体育会所属の大学生が子どもたちとふれあい、丁寧に指導する体験教室を開催します。 幅広い種目で教室を開催し、学生アスリートのパワー、スピード、テクニックを子どもたちが学び、スポーツの魅力・迫力を体感する機会とします。
大規模大会サブイベント、プレ・アフターイベント	大規模スポーツ大会を開催する際に、トップアスリートやコーチによる指導教室や関連イベントを開催します。 大会開催の成果を子どもたちに還元し、スポーツへの興味関心を呼び起こし「観る」スポーツから「する」スポーツに繋がります。
トップアスリート等による講演会・特別授業	子どもたちがスポーツ選手への憧れを抱き、スポーツに興味を持つきっかけとなるよう、講演会や学校訪問・特別授業などの開催を検討します。

(3) 就労・子育て期～中高年期のスポーツの推進・運動による健康づくり

学校を卒業し、仕事や家事、育児が忙しくなるとスポーツから離れてしまう状況が見られます。スポーツ実施率が低く、運動不足になりがちな子育て期や働き盛り世代も継続的にスポーツを楽しむことができるよう、幅広いスポーツ事業を実施します。

主な取組	概要
夜間スポーツ教室	スポーツセンター等での夕刻・夜間の個人利用やスポーツ教室を開催し、社会人が仕事帰りにスポーツに親しめるようにします。
親子スポーツ教室	親子体操やグループゲームなど、親子のスキンシップを促進できる教室をスポーツセンター等で開催します。
スポーツセンター保育ボランティア	子育て中も気軽にスポーツを楽しめるよう、スポーツセンター等での保育ボランティアの配置に努めます。

主な取組	概要
軽スポーツ・ニュースポーツ教室	仕事や家事が忙しく、スポーツから一度離れてしまった人たちも再びスポーツを始められるよう、手軽にできる負荷の軽いスポーツやニュースポーツに親しむ機会を提供します。
健康づくり教室	ストレッチやエクササイズ、ヨガなど心身コントロールのための教室や生活習慣病やメタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。

(4) 高齢者スポーツの推進・運動による健康づくり

いつまでも元気で明るく生き活きたした生活を送ることができるよう高齢者向けのスポーツ機会を提供するほか、高齢者の高い健康意識に対応できるよう健康づくり事業を展開します。
また高齢者がスポーツや運動を通じて地域社会に参加し交流を深め、生きがいを得られるよう、保健・福祉・教育など幅広い分野と連携しながらスポーツを推進します。

主な取組	概要
シニアスポーツ教室	リフレッシュ体操やシニアスイミングなど、高齢者向け教室を開催します。
聖マリアンナ医科大学筋力アップ教室	聖マリアンナ医科大学と連携し、医師やスポーツ医学講座スタッフの指導のもとで筋力アップに取り組む高齢者向けプログラムを開催します。
川崎市老人スポーツ大会	豊かなシニアライフの形成と体力の増進を目的として、高齢者向けのスポーツ大会を開催します。
グラウンドゴルフ・ゲートボールの奨励	老人クラブを中心に市内各地で普及しているグラウンドゴルフとゲートボールについて、区単位の大会やねりんピック予選を兼ねた市民大会を開催します。
ねりんピック(全国健康福祉祭)への派遣	高齢者のスポーツ・文化の祭典である全国健康福祉祭に選手団を派遣し、健康の増進、社会参加、生きがいづくりを推進します。
健康づくり教室	公園体操やストレッチ体操などの介護予防等の取組や、生活習慣病やメタボリック症候群などの予防・改善に役立つ運動教室を開催します。
いこい元気広場	市内の老人いこいの家を拠点として、高齢者を対象に、転ばない身体づくりのための体操や健康づくりにつながるミニ講座を行います。
パワーリハビリテーション・転倒骨折予防教室	高齢者を対象に、立つ・座る・歩くなど生活の動作をスムーズにできるようにするためのトレーニングや運動習慣を定着させるために個人の身体状況に合わせたプログラムを実施します。
介護♥予防かわさき体操	「上を向いて歩こう」と「好きですかわさき愛の街」を用いた、介護予防のための川崎市オリジナル体操の普及に取り組めます。

(5) 障害者スポーツの推進

障害者が自身の興味関心に合わせてスポーツを楽しみ、交流し、社会参加・地域参加ができるよう、スポーツ教室や種目別球技大会、総合スポーツ大会などを開催します。

主な取組	概要
障害者スポーツ教室	障害者のスポーツライフを支えるため、スポーツ教室や体験会、レクリエーション教室等を開催します。
手をつなぐ体育祭	障害者と家族とともに一般市民が参加する運動会を開催し、障害者がスポーツに参加し、競技を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、障害のない人も障害に対する理解を深め、障害者の社会参加を促進します。
川崎市身体障害者大運動会	障害者と家族・ボランティアと一緒に楽しみながら運動を通じて体力向上と相互交流を深めるため、身体障害者の運動会を開催します。
川崎市身体障害者球技大会	障害者スポーツとして球技の普及と障害者同士の交流を深めるため、種目別の球技大会を開催します。
川崎市障害者スポーツ大会	障害者スポーツの振興と社会参加を目的として、障害者向けのスポーツ大会を開催します。(水泳、陸上、フライングディスク、アーチェリー、ボウリング、卓球)
全国障害者スポーツ大会への選手派遣	国民体育大会の開催に合わせて同会場・同施設で毎年開催されている全国障害者スポーツ大会に川崎市選手団を派遣します。



(6) スポーツの安全性向上

スポーツ活動による事故や怪我を未然に防ぎ、安全にスポーツ活動が行えるようにし、また、事故等が発生した場合も被害を最小限に軽減できるよう、安全性向上に向けた事業を展開します。

主な取組	概要
社団法人川崎市医師会・公益社団法人川崎市看護協会との連携	スポーツの安全性を向上させるため、医師会や看護協会と連携し、大会やイベント等への医師・看護師の派遣や、スポーツに関する医科学的見地からの講演等を開催します。
川崎体育救護クラブとの連携	日本赤十字の救急法講座受講者で結成された市民グループと連携し、各種スポーツ大会に救護ボランティアを派遣し、大会の安全な運営と事故防止を図ります。
運動事故防止に関する研修会	教育活動中等の運動事故を防止するため、教職員等を対象に講習会を開催します。
AEDの配備と周知啓発	公共スポーツ施設や学校体育施設にAED(自動体外式除細動機)を配備し定期点検を行うとともに、いざという時に十分対処できるよう、関係団体と連携し、AEDの利用方法に関する研修会等を開催します。

